

大 学 図 書 館 周 題 研 究 会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
(Tel) 075-574-4118

京都橘女子大学図書館 田北十生気付
(Fax) 075-574-4124



第 3 回 支 部 例 会 ・ 交 流 合 宿 の 報 告 ！

(1 泊 2 日)

と き : 2000年 5月 27日 (土) 14:00~16:00 栗東図書館見学
: 2000年 5月 28日 (日) 長命寺参拝、近江八幡水郷めぐり
宿 泊 : 水郷荘で行われました。

27日はJR栗東駅に午後1時30分集合で会員の車に分乗して栗東図書館見学に行きました。参加者は11名でした。

会議室に案内され、館長さんから資料に基づき滋賀県全体の図書完成作の話から栗東図書館の活動などについて詳しく説明があり、その後図書館を見学しました。

見学の後は一路宿泊先の「水郷荘」へ行き、みんなで夕食懇談をしました。竹村氏の実家が近くにあるということで、うまい日本酒の差し入れもあり、深夜まで宿泊者9名で盛り上がりました。

翌日はみんなで近くの西国31番札所「長命寺」に参拝(といっても行っただけ)しました。長命寺は、長い階段を上った山の中腹にあるので、琵琶湖が一望できる寺でした。参拝後は、これも近くの「琵琶湖観光」から船に乗り「水郷めぐり」に出かけました。曇り空の日ではありましたが、雨も降らず、風が肌に気持ちのいい日でした。船は、黄色や

白の小さな花が群れ咲きしている堤防の川をさかのぼり、西湖へと向かいます。ヨシの水辺には野鳥が遊び、水岸には緑の木立が風に揺れて、本当にすがすがしい気持ちになりました。お昼は近江八幡市内の堀割を見物しながら昼食としゃれ込みました。

この例会参加者の感想などは次回の支部報に掲載しますので、まずは簡単な日程報告です。

目 次	第3回例会・交流合宿の報告!.....1頁
	小さな図書館のささやかな新しい試み..2頁
	支部委員会と大会実行委員会報告...6頁
	会費納入のお願い.....7頁
	数珠つなぎ(第50回).....8頁

ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで
編集気付(kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp) 田北まで

小さな図書館のささやかな新しい試み Mail Magazine版「図書館のひろば」

田北十生

私の大学、京都橘女子大学では、学内LANが完備(?)していて、全教職員に端末が与えられています。従って、誰でもインターネットへ接続したり、E-mailを送受信できます。

1996年9月私は、事務機構の改革による人事異動で経理課から図書館へ配属され、課の名称も「図書館課」から「図書館情報課」と改められました。私が図書館情報課で始めた仕事の一つがメールによる学術的な催し物等のお知らせでした。

配信先は全教員および学内理事、企画広報課長、学術振興課長でした。

当時から学内専用の図書館広報誌「図書館のひろば」が毎月約800部程発行されていましたが、内容は主に開館日程などのお知らせ専用広報誌です。今でも、それは変わっていません。もちろん、開館日程などは図書館のホームページにも掲載しています。

(最近ホームページもリニューアルしてURLも変わりました。

新URL → <http://www.tachibana-u.ac.jp/tosyokan/index.html>

蔵書検索もできるようになりました。)

1997年度になり、図書館情報課のメールは、Mail Magazine版「図書館のひろば」として送信されるようになりました。

次ページに掲載しているのが2000年5月20日に発行された196号コピーです。(学内専用HTML版をメールに添付方式 下線は当該ページにリンクシテマス。)

1997年度から始めて3年間で190号以上の配信をしてきました。配信は不定期ですが、平均すると週に2回の発行スピードです。

本学は文学部の単科大学で、英語コミュニケーション学科、日本語日本文学科、歴史学科、文化財学科の4学科を持っています。従って、データベースや学術情報は、これらの学科に関係するものを中心に、文部情報や私立大学関係なども適時掲載しています。

Mail Magazine方式をとっていますので、不要の方は、直ちに「購読中止」メールを返信するだけで配信を中止することにしています。

現在の時点で購読中止のメールは1通も受け取っていません。さらに、配信を受けていない課長から購読の申し入れがあり、現在は、全課長に配信をしています。

教員から、さらなる要望、感謝のメールをいただくようになりました。

受信側の教員の状況ですが、Mail Magazine版「図書館のひろば」は、受信者が開封すると、何月何日何時何分に開封したという通知が図書館情報課へ自動的に帰ってくるようにしていますので、図書館情報課は、いつ、誰がこのマガジンを見たかがわかります。そのデータによると、2年間1回もメールを開かなかった先生が数名いました。訪ねてみると、パソコンは全く使っていない。キーボード恐怖症(?)の先生方である。この先生には、とにかくメールの送受信、ワープロの使い方を個別指導しました。1名を除いて、現在は何とか使えます。残る1名は頑固に拒否しています。重症です。(笑)

他に1名、手こずった先生がいましたが最後の手段で、当該先生のゼミの学生に依頼し、「教室から先生にメールを送っているのですがご返事がありません。いつご返事いただけるのでしょうか?」と質問させました。(現実にメールも送ってもらいました)効果観面で、早速電話がかかり、メールの送受信を覚える気になり、大成功! でした。

これからも内容の改善など行いながらがんばって発行していこうと思っています。

ここで、提案があります。大図研京都のメーリングリスト「yurikamome」を活用し、会員みなさんが、もっている、あるいは、知っている役立ち学術情報の情報交換をしたらいろいろな学術情報の宝庫になるのではないかと思います。

(たきた・かずお 京都橘女子大学図書館)

Mail Magazine版

図書館のひろば

No.196 2000/5/20 発行 京都橘女子大学図書館情報課

はじめに

データベースを作成するには、膨大な時間とエネルギーとお金が要求されます。しかし、それを使うだけの人にはデータベース作成の苦勞は分らないと思います。

同じように、データベースを収集し、データベース集を作るにも、膨大な時間とエネルギー、お金が必要で

私事ながら、「図書館のひろば」の編者も、情報収集の毎日苦勞しています。旅行と出張と病気の日以外は、ほとんど

毎日夜の11時から午前2時まで、ネットサーフィンをしています。

データベースを構築する苦勞からすれば、足元にも及びませんが ITの役割を少しでも果たせたらという思いでがんばっています。

今回は、その私が発見した優れたデータベースリンク集の紹介です。ぜひ、必要なものはブックマークをして、活用してください。

目次

(1)年表・年譜

「一つのウェブサイトには研究者の自己紹介や著作のリスト、文献目録、テキストデータ、画像データ、

催しの案内や記録など種々の情報が混在している。

このような情報を細分化し、集積し、内容に応じて再編成することによって、それぞれの情報は何倍も

の価値を持つことになる。このように再編成された情報はデータベースを構成することになるが、その作成

には人間の判断、しかもそれぞれの分野の専門家による的確な判断を経ることが必要である」。

(後藤 斉,「人文学研究とインターネット—ゆるやかな分散型総合学術情報システムの構築へ—」『人文

学と情報処理』15(1997)所収)

(2)J-text 日本文学学術的電子図書館

著者没後50年以上経過した日本文学作品をテキストファイルとして収録されています。

作成管理者は、甲南女子大学の菊池真一氏、昭和女子大学の深沢秋男氏。

これも大変重要で今後大いに期待されるページです。

トピックス

★文化財発掘の“即戦力”養成—佐賀女子短大

(1)年表・年譜(分類されています。この表・年譜のページは下記明細の後にありますので、アクセスしてみてください)

[000 総記]

[007 情報科学]

漢文資料の電子化年表

作成・公開:岩本篤志(文教大学国際学部非常勤講師)

ホップズのインターネット年表 (RFC 2235)
作成・公開: 田中克範

TCP/IP関連年表
佐々木 晃(東京工業大学 大学院数理・計算科学専攻)

[010 図書館、図書館学]
[011 図書館政策、図書館行財政]
占領期図書館史
作成・公開: 根本 彰(東京大学大学院教育学研究科教員)

[070 ジャーナリズム、新聞]
[071 日本]
新聞の歩み(略年表)
作成・公開: 熊本日日新聞社

[120 東洋思想]
[121 日本思想]
近代日本思想史年表
作成・公開: 小田川

[130 西洋哲学]
[131 古代哲学]
キケロ略年譜
作成・公開: 平野敏彦(広島大学法学部教員)

[133 近代哲学]
ベンタムの生涯(1748.2.15-1832.6.6)
作成・公開: 児玉 聡(京都大学文学研究科)

[134 ドイツ・オーストリア哲学]
カントの年表
作成・公開: 森本誠一

長いのを省略しました。
必要な方はお礼下さい。
実際にホームページにアクセスして下さい。

<http://www.me.jp/asahi/coffee/house/ARG/feature-02.html>

菅原真子氏年表
作成・公開: 北海道教育大学附属図書館旭川分館

[914 評論、エッセイ、随筆]
鶴見俊輔作品年表
作成・公開: 原田 達(桃山学院大学社会学部教員)

鶴見俊輔クロニクル
作成・公開: 原田 達(桃山学院大学社会学部教員)

[930 英米文学]
[933 小説、物語]
Chronology of James Joyce (1882-1941)
作成・公開: 坂本正雄(和歌山大学教育学部教員)

Virginia Woolf's Chronology
作成・公開: 坂本正雄(和歌山大学教育学部教員)

ACADEMIC RESOURCE GUIDE

(2) J-text 日本文学学術的電子図書館

本サイトの趣旨

日本文学関係の電子テキストはインターネット上に続々と増えつつあるが、
文庫本を電子化したものや出所(底本)不明のものが多く、
学術的利用に堪えられるものは少ない。

本サイトは、学術的に信頼できる本文にリンクをはると共に、自らデータを提供し、研究者の便宜を図ることを目的とする。
登録データその他日本文学に関する質問があった場合には、できるだけ誠実に
対応し回答して、正しい文学知識の普及に努める。

本サイトの方針

本サイトは、日本文学関連の学術研究の補助となるデータを収集し公開する。
著作権の切れたもの(著者没後50年以上経過)のみを扱う。
文学作品・研究書などのデータにリンクをはると共に、ライブラリにデータを蓄積する。
電子テキスト提供者には謝礼金を支払う。(詳細別記)
依拠本文(底本・親本)を明記する。
依拠本文(底本・親本)選定には注意を払い、近代文学作品の場合、表記改変の著しい文庫本や通俗全集本は底本としない。
同一作者による同名作品であっても、底本・本文が異なる場合は、複数登録する。
既に他の電子図書館(青空文庫などのデータアーカイブ)に登録されている電子テキストについては、その底本やデータ作成者が同一
のものは、本サイトには登録しない。ただし、本名を明らかにした個人サイトに登録されている電子テキストについては、
提供があれば
本サイトにも登録することができる。

電子テキスト作成上の注意

著作権の切れたもの(著者没後50年以上経過)のみを扱う。
依拠本文(底本・親本)を明記する。
近代文学(明治以降)作品の場合、表記改変の著しい文庫本や通俗全集本は底本とせず、初出の新聞・雑誌、初版本・改訂本などの
単行本、あるいは信頼できる全集を底本とする。
古典文学(江戸時代以前)作品の場合、写本・版本から翻刻する場合は、原本所蔵者の許可を得てからにする。
古典文学作品の活字本による場合は、翻刻・校訂者が没後50年以上経過していることを確認する。
データ形式は、テキストファイル・HTMLファイルを基本とする。(謝礼金支払いの対象はテキストファイル)その他の形式の
ファイルは、
提供があれば登録するが、謝礼金は支払わない。
底本の仮名遣い・送り仮名は、そのままとする。
振り仮名(読み仮名)は省略してもよい。全部省略か、総ルビをパラルビとしたのか、底本のままなのかを明記する。
常用漢字については、新字体に変えるのを基本とする。

以上の方針と異なる場合は、J-TEXTに相談すること。

J-text 日本文学学術的電子図書館

トピックス

★文化財発掘の“即戦力”養成—佐賀女子短期大学

佐賀女子短大は2001年度、文化財調査・保存で学芸員のアシスタント的な役割を担う「文化財アシスト」の養成コースを
文学科に新設する。
2年間で発掘調査など約140時間の実技授業をこなし“即戦力”を養成していくもので、卒業して3年間の実務経験で、
学芸員への門戸も開かれる。
<http://www.saga-wjc.ac.jp/>

購読中止の方法

メールマガジン「図書館のひろば」購読中止は、
下記図書館情報課E-mailへ「購読中止」とだけ記入して送信して下さい。直ちに配信を中止します。

京都橘女子大学図書館／図書館情報課

E-Mail library@mx.tachibana-u.ac.jp

Home Page <http://www.tachibana-u.ac.jp/tosyokan/index.html>

第9回京都支部委員会
第5回大会実行委員会報告（合同委員会）

日時：2000年5月9日（金）19：00～21：00

場所：京都大学附属図書館3Fスタッフルーミング

出席：篠原、若井、堤、中嶋、田北、井上、菅、呑海、大館、大綱（オブザーバー）

【報告事項】

1. ML「ゆりかもめ」運用状況

- ・常任委員の登録は完了した。今後は大会運営のための連絡用にも活用する。
- ・現在の登録アドレス数 70

【審議事項】

1. 第3回支部例会および交流合宿（1泊2日）

1) 日時および会場 5月27日（土）～28日（日）

栗東町立図書館見学、交流合宿（宿舎）水郷荘 / tel.0748-32-2972

宿舎については和室2部屋確保。参加者数によっては部屋を増やす。

2) 企画のねらい

- 1) 栗東図書館～99年の図書館大会でも紹介された滋賀県の公立図書館の先駆的な取り組みを見学、学習。
- 2) 交流合宿～全国大会の企画、運営、さらに各大学の状況交流

2. 支部総会について

- ・全国大会の準備に専念するために9月以降に延ばすことになった。

3. 新役員体制について

- ・支部委員の図書館外への異動、欠員の恒常化などにより現在の体制では、活発な支部活動を維持することが難しくなっている。支部委員体制の強化に向けて、9月までに方策を考えていく。

4. 支部報について

- (1) 5月号について 数珠つなぎ（京都大学から）
- (2) 6月号について 第3回支部例会報告／数珠つなぎ（紀伊国屋書店から）
- (3) 7月号について 大会関連記事／数珠つなぎ（立命館大学から）

5. 支部報復刻版の発行について

- ・業者より提示された見積額（60万円）で発注することになった。

内訳 CD-ROM データ作成

- ・スキヤニング ・PDF データ作成（著者名より検索）
- ・タイトル頁、目次等デザイン製作 CD-ROM 作成

- ・全国大会までに完成できる見通しである。

6. 京都支部ホームページについて

- ・大会関連情報の充実をはかるため、デジタルカメラに撮影した画像を取り込む。
- ・更新作業はこまめにおこなう。

7. 全国大会について

- ・研究発表 ・龍谷大の村上氏の発表は無理。
- ・大会分科会について
 - ・大学図書館史分科会に「京都大学図書館史」の報告を出す。
 - ・電子図書館分科会の設置を提案する。報告者は京都大学から出す。そのほか大英図書館についての報告を1本予定。
 - ・図書館経営分科会で立命館大学の松原氏に報告していただく。
 - ・図書館の自由分科会で立命館大学の若井氏に報告していただく。
 - ・人文系分科会で京都大学の「お伽草紙」展示会の報告を検討する。
 - ・人文系分科会に版木藤の見学を組み込むことを検討する。
- ・自主企画
 - ・利き酒の会（レクチャー付き）を検討する。
 - ・図書館について（大図研の歴史も含め）自由に語れる場をつくる。
- ・託児所
 - ・全国委員に確認をとったうえで、3名に満たない場合は取りやめる。
- ・昼食 ・学外業者に弁当を配達してもらう。
- ・会場の設備・機器環境
 - ・ノートパソコンとOHPによるプレゼンテーション環境（最低3セット）は準備する。尚、データカード型PHSの利用により、通信環境は確保するが、無線LANの構築は、取りやめる。
- ・業者からの協力
 - ・展示ブースの設置を検討する。
 - ・袋、メモ帳、ボールペンなどを複数の業者から提供してもらうように交渉する。
- ・大会申込み用振替口座
 - ・開設手続きは完了。番号は5月中旬までには通知される予定。

8. 次回支部および大会実行合同委員会

6月6日（火）19：00～21：00

（京都大学附属図書館3Fスタッフラウンジ）

会費納入のお願い

1999年度会費未納の会員さんは、至急会費の納入をお願いします。会費についての問い合わせは財政担当支部委員の中嶋スエ子さん、又は最寄りの支部委員又は、編集子までお願いします。

好評の連載コーナー!!

●京都大学教育学部図書館

たけむら まこと

●大図研京都数珠つなぎ 第50回

竹村 心 さん

私は歴史が大好きです



私は歴史が大好きです。

歴史は人間の物語りだからです。

一人の人生などというものは、たかだか「現代」という時代の7、80年に過ぎません。それに引き換え、歴史には実にさまざまな「時代」という時間的制約と地域という空間的制約の絡み合いの中で、濃密な人生を送っている生身の人間が登場し、時間的空間的制約を乗り越えようと懸命に生きている姿はとても感動的でさえあります。

また、現代に生きている私たちからは想像もつかなかった新たな発見と驚きもあります。そんな感動と発見のある歴史の本を読むことが私の楽しみです。

最近読んだ歴史の本2冊を紹介します。

最初に紹介するのは『桂文庫』主宰の柴圭子さんが書かれた『近世おんな旅日記』(吉川弘文館 1979年)という本です。

江戸時代の女性といえば、封建社会の中で耐えて生きているイメージが強いのですが、俳諧の世界では性を意識せず、対等の立場で相手の心に入り、相手に心をまかせる世界があったことに驚きます。

また、田上菊舎尼(たがみ・きくに)という女性は24歳で夫に死別した後、実家へ復籍し、28歳の時、尼僧となり、文芸修業の旅に出て、遊吟、画賛、禅琴を習い、全国を交遊して歩いています。

また、采蘋(さいひん)という女性は儒者の父親の死後、江戸へ遊学し、全国の漢学者を訪ねて歩き、酒を酌み交わし、親交を深め、全国行脚の旅に出ているのです。

つぎに紹介するのはメアリー・カラザースの『記憶術と書物。口 中世ヨーロッパの情報文化』(工作舎 1997年)という本です。

人間がもつ創造的能力のうちで最高のものは何かと問われれば、現代人はだれもが「想像力」をあげるでしょう。

ところが、中世ヨーロッパでは、「記憶力」こそが、人間の最も偉大な能力だったので。当時、多くの書物は図書館に収められ、人々はおぼろ書物を記憶することで、学問を収めなければなりません。そのためにはさまざまな記憶術が考案され、教育されていきました。

そして、書物の体裁やレイアウトも、テキストをより記憶しやすいように工夫されていました。

書物は「記録のための道具」ではなく、「記憶のための道具」だったというのです。実に驚きです。修道院は修道僧達の音読で騒々しく、図書館の出現で、黙読という読書形態が普及したなどという事実を知ることになります。537頁という大著ですが、「帯び」には「フランセス・イエツの『記憶術』を越える名著」と書かれていますが、緻密な人文学の書物であることは確かなようです。実に読みごたえのあった本でした。